これはるから、ここ押さえてて







絵本を広げていた年長さんの隣に、年中の男の子が顔をのぞかせました。
「これ作りたい」
思わずこぼれた声に、「いいね」。
そこから、二人の遊びが始まりました。
アトリエからビニールテープや筒を取り出して、「ちょっとここ、押さえてて」
少しずつ、二人の作品ができあがっていきます。
言葉だけでなく、手や動きでも伝えようとする工夫が、年長さんの姿から見えてきました。
「そろそろ外に行くよ」という担任の声に、手が止まります。二人で交わしたのは、「また明日！」の約束。



「明日は部品を追加して、こっちを高くして、どんぐりが転がるようにしなきゃ！忙しい！」
「明日も早く来なきゃ、僕がいないとこれ始まらないし！」
大好きなものに出会うと、子どもの世界はぐんと広がります。
自分で明日の計画を立てる年長さんの姿に、たくましさを感じました。そして、遊びを通してゆるやかにつながる年中さんとの関わりにも、豊かさを感じたひとときでした。
年齢の違う子どもたちが一緒に過ごすと、関わりは何倍にも広がっていきます。
わたしたちはこれからも、遊びの中で育ちあう子どもたちの姿を大切にしていきたいと思います。

秋の園庭は、どんぐり、松ぼっくり、落ち葉でいっぱいです。
お休み明けには、ご家族とのお出かけ先で見つけた秋も、たくさん園に届きます。
「ねえ、これで何か面白いことやろうよ！」
その声に人が集まると、山盛りだった籠は、あっという間に空っぽになります。



